

革製品のお手入れ 長く愛用していただくために

汚れ落としについて

- 軽い汚れはブラッシング、部分的な汚れは指定のレザークリナーを布につけて軽く拭きとります。ただし、アニリン仕上げ革は、クリナーがしみ込んでシミになることがありますから、目立たない部分で試してください。
- 革用消しゴムや、汚れていない上質の消しゴムでも落とせませんが、まず影響がないか見えないところで試してみましょう。
- ベンジン、シンナー、中性洗剤などを使うと、色落ちしたり革のツヤがなくなります。

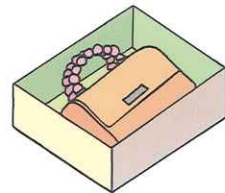
濡れてしまったら？

- 水滴を払い落としした後、タオルでたたくようにして水分を吸い取り、風通しの良いところで陰干しします。濡れた革は熱に弱いのでストーブなどは避けましょう。
- 乾燥後、軽くもんでもゴワゴワするようなら、指定の革用乳化クリームを塗って油分を補給します。



革製品にカビが...! 湿気は大敵です

- 表面にツヤのある革は柔らかい布でカラ拭きし、スエードやヌバックなどの起毛革はブラッシングします。
- 縫い目などの細かい部分は歯ブラシも使用できます。
- カビを除去したらハンガーにかけて陰干しして、十分に乾燥させましょう。



革製品の保管方法は？

- あらかじめ陰干しして乾燥させ、カビを発生しにくくします。
- ビニールカバーは革の呼吸を妨げ、カビ発生の原因となります。
- 除湿剤はシリカゲル系を用います。塩化カルシウム系の除湿剤は、放置しておくで液状になり、それが革に付着すると、収縮・硬化し、修復不能になります。
- 色移りすることがあるので、他のものとは離して保管するか、商品に付属する袋に入れて保管してください。

日本エコレザー よくあるご質問

Q. 普通の革と日本エコレザーはどこが違いますか？

A. 発がん性染料を使用していない、有害化学物質の検査に合格している、臭気が基準以下、など6項目の条件を備えたものが日本エコレザーです(中面の「日本エコレザー 6つの条件」参照)。

Q. クロム鞣し(なめし)でも日本エコレザーはある、と聞きましたが？

A. クロム鞣しでも、植物タンニン鞣しでも、日本エコレザー基準値を満たす革であれば、鞣しの種類は問いません。日本エコレザーの認定数では、クロム鞣しの革のほうが多くなっています。

Q. 海外でもエコレザーがあるそうですが、日本エコレザーと同じですか？

A. 共通部分は多いのですが、日本エコレザーは独自の基準として、排水・廃棄物が適正に管理されている工場で生産されていることも審査の対象です。また、作り手を明確にすることで、消費者の方々に安心して使っていただけるようにしています。

Q. 日本エコレザーの製品はどこで買えますか？

A. 全国の百貨店や有名専門店で取り扱っています。
右の認定マークのついたタグを目印にお買い求めください。



Q. エコレザーは、汚れやシミが付きやすいと聞きましたが...？

A. そんなことはありません。革としての特性は変わらず、普通の革と同様に扱うことができます。ただし、植物タンニン鞣しの革(ヌメ革)のように、表面に顔料などをあまり用いず、自然の風合いを生かした素材は、水分や油分を吸収しやすく、シミになります。雨に濡れてもシミになることがあるので、注意してください。手入れは普通の革と全く同じです。ただし、革の種類に合わせたケア用品を使用してください。

発行：NPO法人 日本皮革技術協会

〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町129番地あさひビル4F
電話・FAX 079-284-5899 <http://www.hikaku-kyo.org/>
昭和30年設立、わが国唯一の皮革に関する学術団体です。
日本の皮革産業を技術面からサポートしています。

日本エコレザー認定団体
一般社団法人 日本皮革産業連合会

JAPAN ECO LEATHER

人と環境に優しい 日本エコレザー

安全・安心、そして環境を考える...
このマークが付いた商品がおすすめです。



安全・安心な革製品を選びたい

いま、モノを通して環境と向き合う生活が求められています。
日本エコレザーは、安全、安心な革製品を選ぶための基準。
6つの条件をクリアした革は信頼の証です。



日本エコレザー 6つの条件

日本エコレザーは「日本エコレザー基準 (JES)」に適合し、「製品の製造、輸送、販売、再利用」まで一連のライフサイクルの中で、環境負荷の低減に配慮し、環境面への影響が少ない、と認められた革です。6つの条件とは、

- 1 天然皮革である
- 2 発がん性染料を使用していない
- 3 有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- 4 臭気が基準値以下
- 5 適切に管理された工場で作られた
(排水、廃棄物が管理された工場で製造)
- 6 染色摩擦堅ろう度が基準値以上
(色落ちしにくい)



皮の主な「鞣し」(なめし)方法

動物の生皮に化学的な処理を施して、腐敗しにくく、耐久性や強度に優れた「革」を製造することを「鞣し」(なめし)と言います。

- **クロム鞣し**
柔軟性、弾力性、耐熱性、染色性に優れています。
- **タンニン鞣し**
植物から抽出したタンニンで鞣す方法。使い込むうちにエイジング(色が濃くなり、光沢がでる)が起こるのが特長。

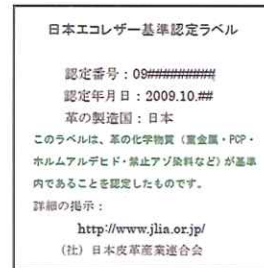
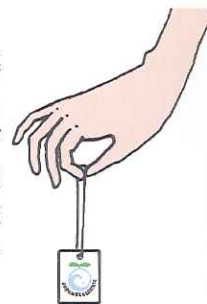
作り手がわかるから安心 認定ラベル

日本エコレザー基準認定ラベルに表示された認定番号から生産した会社がわかります。日本皮革産業連合会のホームページにアクセスして、認定番号を入力してください。
<http://ecoleather.jlia.or.jp/data/>



(ラベル表面)

日本エコレザー基準認定ラベルは、皮を鞣すドラムが勢いよく回転し、皮と鞣し剤が反応し、革になる様子を表しています。



(ラベル裏面)

日本エコレザー基準認定ラベル

認定番号: 09#####

認定年月日: 2009.10.##

革の製造国: 日本

このラベルは、革の化学物質(重金属・PCP・ホルムアルデヒド・禁止アゾ染料など)が基準内であることを認定したものです。

詳細の提示:

<http://www.jlia.or.jp/>

(社) 日本皮革産業連合会

日本エコレザー基準認定ラベル

認定番号: 12#####

認定年月日: 2012.04.###

革の製造国: 日本

このラベルは、革の化学物質(重金属・PCP・ホルムアルデヒド・禁止アゾ染料など)が基準内であることを認定したものです。

<http://www.jlia.or.jp/>

(一般社団法人) 日本皮革産業連合会

オンリーワン! 革は、人に優しい 高級ファッション素材です。

- 革は食肉生産時の副産物である皮を有効利用したもので、人類最古のリサイクル品といえます。
- 動物の種類、品種、年齢、性別、飼育状況などによって組織構造や表面の状態に大きな違いがあり、世界に二つと同じ革はありません。
- 革は耐久性、保温性、吸放湿性、難燃性を持ち、その特徴を生かして用途を広げています。
- 革製品は使いこむほど色や風合いが変化し、革本来の魅力が醸しだされる高級ファッション素材です。